



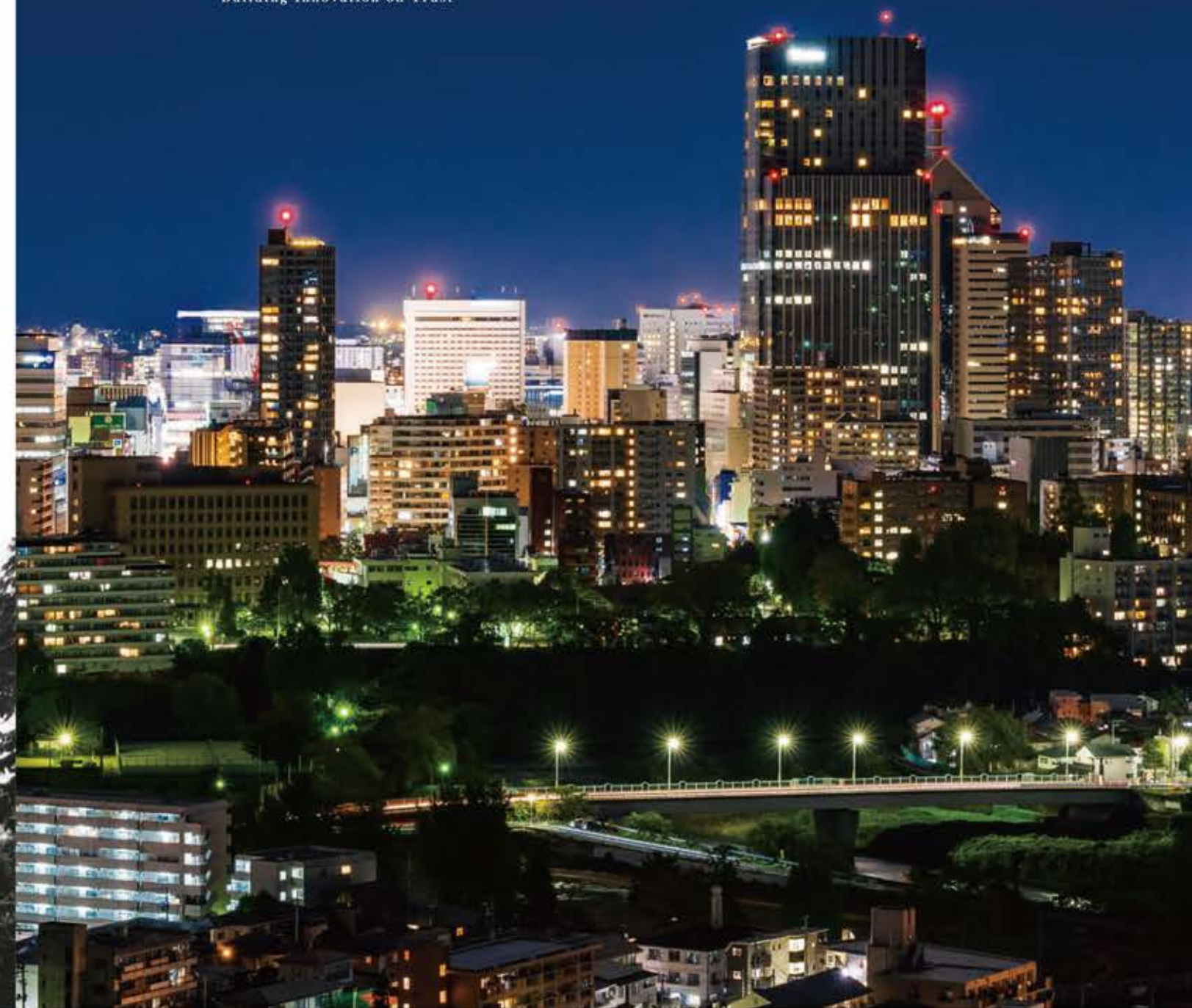
創立70周年記念誌

信頼から革新へ。

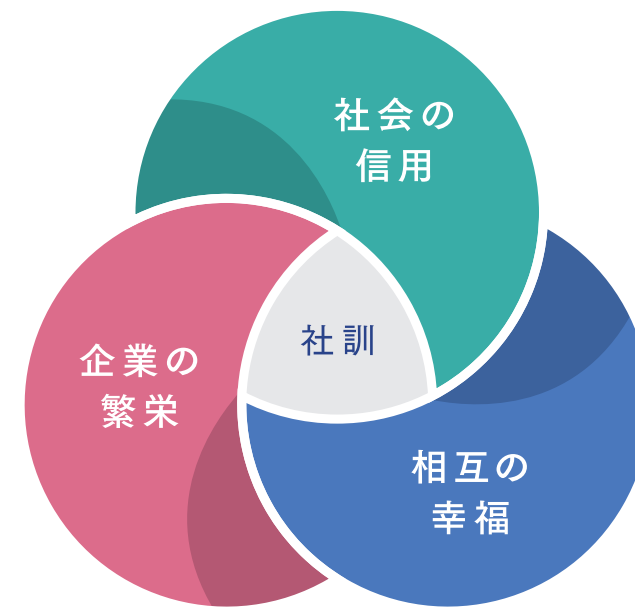
Building Innovation on Trust



株式会社 中北電機



株式会社 中北電機



 株式会社 中北電機



信頼から革新へ。

Building Innovation on Trust

私たち株式会社中北電機は、
創業以来70年にわたり
お客様や地域社会の皆さまとの信頼関係を大切にしながら
歩みを進めてまいりました。

この節目の年

私たちはこれまでに築いてきた「信頼」を原点とし
次の時代に向けた「革新」への挑戦を新たに掲げます。

信頼という確かな土台があるからこそ
私たちは革新という未来への一歩を踏み出せます。

「信頼から革新へ」——
70年の歴史に感謝を込めて、そして次の未来へ。

中北電機は
これからも皆さまとともに歩み続けます。



Nakakita

株式会社 中北電機

株式会社中北電機のロゴは、
「社会の信用」「企業の繁栄」「相互の幸福」の
3つの価値を視覚的に表現しています。

ロゴマークのモチーフ

ロゴに取り入れられている円形は「電気の流れ」や
「エネルギーの循環」を象徴しています。

カラーリング

メインカラーの「ブルー」は、技術の信頼性・誠実さ・
冷静な判断力を表しています。

ロゴタイプ（社名部分）

社名「中北電機」は、視認性と安定感のあるフォントで構成され、
堅実な企業イメージを表現しています。
特に「中北」の文字には、創業以来の歴史と地域に根差した
企業であることを込めています。

支えていただいた70年 支えあう力を 未来へつなぐ



時下ますますご隆昌のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊社は令和7年10月1日をもちまして、創立70周年を迎えることとなりました。これもひとえに皆様のご支援とご愛顧の賜物と、心より感謝申し上げます。

弊社の前身は、祖父が30代の頃に東京で仲間と共に立ち上げた「中北電機製作所」でございます。祖父の故郷である宮城県に営業拠点を新設し、東北電力様をはじめ地元の皆様のご支援・ご厚情を賜り、独立できるだけの営業基盤を築いた後、関東圏での営業権を当時のパートナーに譲渡し、東北地方に特化した電材店として新たに誕生したのが、現在の株式会社中北電機であります。

その後、二代目社長・佐藤正孝氏が33年間代表を務め、

令和元年に三代目である私へと代表権が引き継がれました。初代・二代目はいずれも約30年間社長を務めており、私も同じくらいの期間を担うことができれば、ちょうど100年企業の礎を築く時期に社長を任されることとなります。

創業当初は、東北電力様向けに配電柱で使用される資機材の製造・販売を主業務としておりました。二代目の時代からは、学校や役所、病院やテナントビルなどの大型施設向け内線工事材料の販売をはじめ、通信や鉄道関連といった新たな顧客層への営業も展開してまいりました。

そして先代たちが培ったノウハウや営業基盤を土台に、私の代では再生可能エネルギー、海外展開、EC事業などを推進し、東北から日本全国、さらには世界へと事業領域を広げることに成功しております。

子どもの仕事を端的に申しますと「人々の生活に不可欠な

電気インフラを構築するための工事資機材を製造・販売する」こととなります。一見すると地味で目立たない業務ですが、言い換えれば「人が生きていく上で欠かせない電気インフラを陰で支える企業」であるとも言えます。

私自身、若い頃から海外を旅し、四半世紀にわたり先進国のみならずアジア・中東・アフリカなど多くの途上国を見てまいりました。その経験から強く感じるのは、国の経済成長と電気インフラの整備は密接に結びついているという事実です。途上国が発展し人口が増加するにつれ、インフラ需要は世界的に拡大しています。それに伴い、人々が国境を越えて経済活動を行う動きも加速し、世界はより激動の時代に突入することが容易に想像されます。

しかしながら、いかに時代が変化しても変わらないものがあります。それは「人と人とのつながり」そして「暮らしをより豊かに

し、幸福に生きたいと願う心」です。

私たちは「人々の生活に不可欠なインフラを陰で支える」という創業以来の想いを受け継ぎ、次の時代を見据えながら成長を続けてまいります。

このたび創立70周年を迎えることができたのは、多くのお客様に支えられ、皆様のご指導とご協力のおかげと、深く感謝申し上げます。これを機に社員一同さらなる努力を重ね、皆様のご厚情にお応えしていく所存です。

今後とも変わらぬご支援・ご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

株式会社中北電機
代表取締役社長

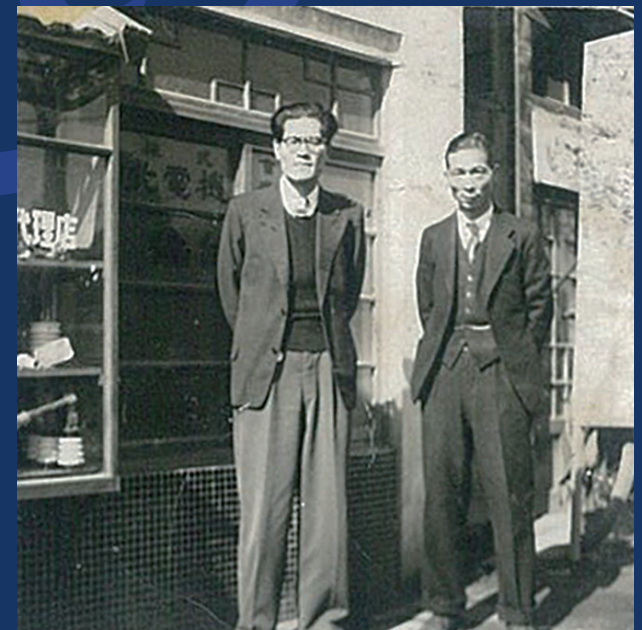
佐藤 孝 文

INDEX

企業理念	01
70周年記念ロゴ	02
企業ロゴ	03
ご挨拶	04
歴史	07
相談役インタビュー	12
事業所紹介／所長挨拶	14
3.11 災害の記憶	20
70周年記念企画 社員座談会	22
メモリアルアルバム	24
地域貢献活動の取り組み	27
納入実績紹介／売上推移	28
取扱商品紹介	30
組織図	31
会社概要／編集後記	32

HISTORY

歴史



初の自社事務所(1953年頃)
左／初代社長 佐藤孝一
右／中北電工 中村社長



沿革

- | | |
|--------------|---------------------------|
| 1955年(昭和30年) | 9月 9月10日会社設立(資本金500万円) |
| 1955年(昭和30年) | 10月 株式会社 中北電機として仙台市立町にて創業 |
| 1957年(昭和32年) | 11月 仙台市中杉山通り1番地に移転 |
| 1964年(昭和39年) | 6月 新潟地震 |
| 1965年(昭和40年) | 10月 創立 10周年 |
| 1966年(昭和41年) | 6月 関連会社 東北亜鉛電材製作所創業 |



新潟地震(1964年)



中北電機本社大和町へ新築移転(1969年)



東北亜鉛電材移転前工場内(1975年頃)



中北電機七北田工場(1950年代)



村山武(1957年頃)

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1975年(昭和50年) | 3月 資本金 1,500万円に増資 |
| 1975年(昭和50年) | 10月 創立 20周年 |
| 1975年(昭和50年) | 10月 新潟市長潟に新潟営業所移転 |
| 1976年(昭和51年) | 4月 青森市勝田に青森営業所へ昇格移転 |
| 1976年(昭和51年) | 10月 酒田大火 |
| 1976年(昭和51年) | 11月 秋田市千秋城下町に秋田営業所移転 |



中北電機(1975年)



東北亜鉛電材製作所(1975年)

災害トピック

電気設備技術の進展や発展に深く携わってきた弊社にとって、
災害などからの復旧や復興は忘れがたい歴史の1ページとなっています。

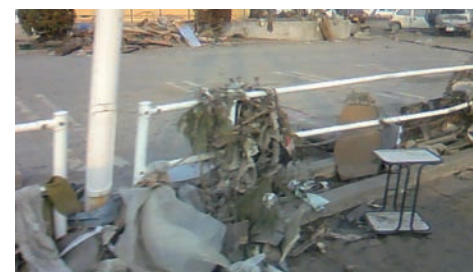
山形県酒田市では昭和51年10月、大火災が発生しました。強風にあおられた炎は瞬間に繁華街を飲み込み、大きな被害をもたらしました。弊社では東北電力様からのご依頼を受け、仙台から数回にわたり復旧に必要な資材を運搬いたしました。

続く宮城県沖地震では、倉庫の損傷が特に大きく、資材を仮倉庫へ移すなど、一日でも早く通常業務を再開できるよう、社員一丸となって復旧に取り組みました。

新潟県中越地震の際には、新潟営業所に大きな被害がなかったことは幸いでした。しかし震源地である中越地方では、家屋の倒壊をはじめ甚大な被害が発生しました。なかでも、車で移動中に土砂崩れに巻き込まれたご家族の中から、92時間後に2歳の男児が奇跡的に救出された出来事には深い感動を覚えました。



提供：東北電力ネットワーク株式会社



そして、私たちの故郷を含む広範囲に甚大な被害をもたらしたのが東日本大震災です。本社建物内では多くの物が床に散乱し、足の踏み場もない状況でした。建物がきしむ不気味な音は、今もなお脳裏に焼き付いています。発災翌日には出社できた十数名の社員で社内整理を行うとともに、企業間の枠を超えた連携により復旧資材の調達や原状回復に全力を尽くしました。



宮城県沖地震

提供：東北電力ネットワーク株式会社

1978年(昭和53年)	6月 宮城県沖地震
1980年(昭和55年)	3月 資本金 2,000万円に増資
1980年(昭和55年)	10月 郡山市鶴見坦に郡山営業所開設
1980年(昭和55年)	12月 五六豪雪(東北地方から北近畿までを襲った記録的豪雪)
1981年(昭和56年)	2月 資本金 2,500万に増資
1983年(昭和58年)	3月 資本金 3,000万円に増資
1983年(昭和58年)	6月 山形市城西町に山形営業所開設
1983年(昭和58年)	7月 東北電設機材総合展に出展
1984年(昭和59年)	5月 福島市丸子に福島営業所移転
1985年(昭和60年)	7月 創立 30周年
1985年(昭和60年)	11月 秋田市千秋城下町敷地内の新築マンション1階に秋田営業所移転
1986年(昭和61年)	3月 佐藤孝一氏 取締役会長に就任
1986年(昭和61年)	3月 佐藤正孝氏 代表取締役に就任
1986年(昭和61年)	8月 郡山市下亀田に郡山営業所移転
1990年(平成2年)	11月 青森市松原に青森営業所移転
1991年(平成3年)	6月 仙台市若林区卸町東4丁目3-27に本社社屋 新築移転
1995年(平成7年)	4月 建設業許可(電気工事業)を申請して受理される
1995年(平成7年)	4月 宮城県知事建設業許可(般-7)第13902号を取得
1995年(平成7年)	10月 創立 40周年
2004年(平成16年)	4月 宮城県知事建設業許可(特-16)第13902号に変更
2004年(平成16年)	10月 新潟中越地震



創立30周年記念パーティー(1985年)



創立30周年記念パーティー(1985年)



本社社屋 新築移転(1991年)

2005年(平成17年)	10月 創立 50周年
2007年(平成19年)	9月 国土交通大臣建設業許可(特-19)第22317号を取得
2007年(平成19年)	11月 電設部 新設
2010年(平成22年)	10月 佐藤孝一取締役会長逝去
2011年(平成23年)	3月 東日本大震災
2011年(平成23年)	5月 東京事務所開設
2012年(平成24年)	9月 国土交通大臣建設業許可(特-24)第22317号を更新
2013年(平成25年)	3月 本社倉庫 新築
2013年(平成25年)	11月 秋田市手形に秋田営業所移転
2015年(平成27年)	10月 創立 60周年
2016年(平成28年)	6月 盛岡市津志田西に盛岡営業所移転
2019年(令和元年)	5月 佐藤正孝氏 代表取締役退任 相談役に就任
2019年(令和元年)	5月 佐藤孝文氏 代表取締役就任
2020年(令和2年)	12月 郡山営業所 移転新築
2022年(令和4年)	9月 国土交通大臣建設業許可(特-4)第22317号を更新
2022年(令和4年)	11月 福島営業所 新築
2023年(令和5年)	2月 本社第二倉庫 新築
2023年(令和5年)	2月 関連会社 東北亜鉛電材製作所 移転新築
2025年(令和7年)	10月 創立 70周年



東日本大震災(2011年)



本社倉庫新築地鎮祭(2013年)



Q1 | 70周年を迎えた思いは？
「継続は力なり」—
70年の歴史に支えられて

創業70周年という節目を迎えられたのは、多くのお取引先様や協力会社様、先人を含めて中北電機に携わってくださった社員の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

私共のような中小企業で創業から70年というのは古株になります。現在では、簡単に会社を興せる時代になりましたが、継続は力なりという言葉の通り、今日まで事業を継続できました。これもひとえに、業界をはじめ、地域社会の皆様から

信頼と実績を築くことができたからだと思っています。

また、会社を継続させようと特別な努力はしていませんが、社員の皆さんと共に会社を盛り立ててこられたことが、今日に繋がっているのだと思います。

当社の歩みを振り返ってみると、創業者である父が東京で友人と会社を設立し、出身地(村田町)である宮城県(仙台市)に出張所を設置して、単身赴任で頑張り続け、軌道に乗せたことが始まりでした。

私は大学卒業後、大阪の会社に就職したのですが、体調を崩してやむなく退職し、昭和48年から中北電機に勤めるようになりました。幼い頃、父は月に一週間ほど東

京に帰ってきて、朝早く皆で食卓を囲み、夜遅くに帰ってくる。そんな日々が続いていました。翌朝も目を真っ赤にして出勤する父の姿を見ていたので、また仙台へ戻って行くのを見送るたびに、同じような生活をするのかと思うと、中北電機で働くことは全く考えていませんでした(笑)。

Q2 | 社長に就かれた当時の想いは？
「社員のために」から
始まった私の経営

私が41歳のときに先代から引き継いで社長に就任しました。長期目標を立てるよりも、社員の皆さんの給料を少して

も上げられるようにみんなで頑張ること。それが就任した当初の想いでした。というも、給料に不満を持っていた優秀な人材が辞めてしまうことが多発していました。給料を上げることは社員の皆さんを守れることはもちろんですが、会社を守ることに繋がりますので、とても重要なミッションでした。

私の性格は、楽しく仕事をするのが最優先で、給料は二の次でした。とはいえ、みんながそうではありません。給料を上げるために売上げを伸ばし、お金にシビアだった先代に納得してもらえなければならず、とにかく大変でした。

また、先代が苦手だった社員とのコミュニケーションは私の得意分野でしたし、上司や部下という関係にかかわらず、思ったことを正直に言い合える仲間と巡り会えたことは、とても恵まれていたなと思います。

Q3 | 初代社長の人柄は？
「厳しさ」の中にあった、
父の愛と誇り

先代は尋常小学校卒業後から仕事を始めた人でしたので、学歴に対してコンプレックスを持っていたと思います。ですから、勉強のことならお金は惜しまないと言っていましたし、そのおかげで私たち三兄弟は大学まで通わせてもらえました。

そんな先代を一言で言うのなら、厳しい人でした。私が入社した時も「いずれ会社を背負う立場になったら、他の社員より多く給料をもらうことになる。だから、人

の2倍、3倍頑張るのは当たり前だ。まわりからは何かにつけ社長の息子という目で見られるぞ」と、何度となく言われました。

また、「年寄りを大事にしろ」とも言われました。でも、「年寄りと言うな。先輩だ」と(笑)。たしかに人生の先輩であり、社会人としての経験も豊富にあるわけですから敬わなくてはなりません。

そして、何よりどんな仕事でもできたし、攻めることが得意でした。運が良かったこともあります。私が入社してから一度も売上げは下がっていません。先代がこの地でゼロから築き上げてきたお客様との信頼関係が大きな要因だと思っています。

Q4 | 当時の営業活動は？
心をつかむ営業—
セールストークは二の次

営業に限らず、どんな仕事でも簡単ではありません。例えば、やみくもに訪問営業をしても成果を上げることは難しいですよね。大阪時代の先輩方から教わったことは、訪問先のお客様の心を掴める情報を事前にリサーチしてから足を運び、興味を持たれている話題をふって気分良くお話いただくことでした。その後に、商品パンフレットなどをお渡しすると、目を通していただきます。つまり、セールストークは二の次なのです。

また、人同士というのは合う、合わないといったフィーリングがありますから、お客様に合った人材が営業担当になれば、商談はよりスムーズに進むことが多



初代社長 佐藤 孝一

いです。こうしたことも仕事の面白いところですよ。

Q5 | これからの中北電機を担う若い世代へ
仕事は自分で探すもの—
情性にしない働き方

情性で仕事をするのではなく、仕事は自分で探してほしいですね。言われたことはやるけども、言われたこと以外はやらなくなった人が多くなったように思います。

私たちの世代は先輩たちから「言われたことをやるのは当たり前。次は何をやるのか、この仕事をするために何が必要なのかを自分で探せ。それができれば、仕事の範囲を広げられるから」と口酸っぱく言われたことを今でも覚えています。

「できる」、「できない」ではなく、とにかくやってみること。仕事を面倒だと考えない。みんなで楽しく仕事をして、頑張って給料を上げよう。利益が出たらみんなで遊びに行こう。これが私のやり方でしたし、今後もそうあってほしいですね。

Message | 相談役インタビュー

創業70年への感謝 次世代へ伝えたい想い。

電気設備技術を中核に顧客満足を追求してきた中北電機において、永年へ渡って会社を牽引し、発展させてきた佐藤正孝相談役。創業70年の振り返りやこれからの会社を担う社員への想いなどをお話いただきました。



相談役

佐藤 正孝

昭和20年2月 東京都江戸川区生まれ
昭和43年3月 明治大学法学部卒業
昭和43年4月 日動電工(株)入社
昭和48年4月 (株)中北電機入社



多様化するニーズに応じて広がるネットワーク



■ 本社

〒984-8575
 仙台市若林区卸町東四丁目3-27
 TEL: 022-288-1000(代)
 FAX: 022-288-1055

■ 第二倉庫

〒984-0031
 仙台市若林区六丁目字南13番地1



■ 青森営業所



青森営業所 所長
 土岐 稔

〒030-0813
 青森市松原三丁目2-17
 TEL: 017-775-3345
 FAX: 017-722-2576

昭和46年10月に青森市桜川に青森出張所を開設しました。

昭和51年4月に青森市勝田に青森出張所を青森営業所に昇格移転しました。

平成2年11月に青森市松原に青森営業所を移転し、現在に至ります。

青森県は本州最北端の地でもあり、県庁所在地は青森市になります。

青森市は県内で一番積雪が多く、世界的にも屈指の豪雪地帯です。

春は弘前市・弘前城の桜まつり、夏は青森市・ねぶた祭、五所川原市・立佞武多、八戸市・八戸三社大祭などの祭りがあります。秋には十和田湖・八甲田山の紅葉、温泉もあり、おすすめの観光地となっております。

当社も70周年という節目を迎え、今後も多様化するインフラ業界における電気材料の供給企業として、お客様に信頼される企業として、100年続く企業を目指して、青森営業所所員一同これからの発展に向けて努めてまいります。



■ 盛岡営業所



盛岡営業所 所長
 澤口 篤

〒020-0836
 盛岡市津志田西二丁目3-13
 TEL: 019-601-6838
 FAX: 019-639-0058

昭和50年2月に盛岡市志家町に開設しました。

盛岡市は奥羽山脈と北上山地の間に位置し、夏は涼しく冬は厳しい寒さに見舞われます。特に冬の最低気温は-30℃近くまで下がることもあります。

東北新幹線開通後、冬のスキーや伝統行事、そのほか温泉地も多いことから、多くの観光客が訪れます。特に有名な伝統祭りの「盛岡さんさ踊り」は、8月初めの4日間に繰り広げられ、迫力ある踊りと太鼓の鼓動は一見の価値があります。一般客も踊りに参加可能で、楽しむことができます。そのほか宮沢賢治をはじめ多くの偉人を輩出し、歴史博物館などもあり、当時の文化を観覧できます。

2011年3月11日、東日本大震災により沿岸部は甚大な被害を受けました。災害復旧では道路整備、施設新築など多くの方々にご尽力いただきましたが、人口減少が甚だしく、再生に向けての取組が今後の課題です。

開設以来、長い年月をかけて諸先輩方がつくり上げてきた実績を継承し、今後も地域社会発展の一助となり、資材供給の役割を所員一同果たしてまいります。



■ 秋田営業所



秋田営業所 所長
佐藤 直人

〒010-0851
秋田市手形字西谷地708番
TEL:018-835-3688
FAX:018-832-9276

昭和45年1月に秋田市旭北栄町に開設しました。

当初は本社からの助けもあり開設されたと聞いております。

昭和58年には、当時東北の観測史上最大の秋田県沖を震源とするマグニチュード(M)7.7の大地震が発生し、強い揺れの直後、東北地方の日本海側を中心に大津波が襲いました。

また、平成23年には東日本大震災により、東北地方は甚大な被害も経験いたしました。その度に、震災対応としてインフラ整備等の材料供給に尽力してまいりました。

平成20年に当社初のTDK-MCC(現TDKエレクトロニクスファクトリーズ株式会社)の現場に常駐物件として出張所を開設しました。

令和4年にはニプロ(株)大館工場現場

も常駐物件として出張所を開設いた

しました。これらはお客様からの信頼

と期待があったからこそその依頼で

あったと思います。

この経験を活かし、次世代に繋げて

まいりたいと思います。今後、気候変

動により水害や雪害等も懸念されま

すが、地域発展に貢献してまいりたい

と思います。



■ 山形営業所



山形営業所 所長
長橋 直弘

〒990-0832
山形市城西町二丁目7-43
TEL:023-645-1605
FAX:023-645-1634

昭和58年6月に山形市城西町に開設しました。

山形城跡「霞城公園」のお堀の西側に位置しております。山形市は樹氷と温泉の「蔵王」、俳聖松尾芭蕉ゆかりの「山寺」と美しい景色が楽しめます。

開設以来、平成3年10月に「庄内空港」開港、平成4年7月に「山形新幹線」開通、令和4年10月に「東北中央自動車道」新庄市までの全線開通と、社会インフラの発展と共に歩んでまいりました。

山形県内を中心に、より多くのお客様と共に電気設備工事を支え、基盤を築いてまいりました。今後は再生可能エネルギーへの対応、デジタル化・DXの推進など、社会やお客様のニーズに柔軟に応えながら、次の時代を見据えた新しい価値の創造に挑戦してまいります。

今年、創立70周年を迎えた中北電機

は、これからの100年に向けた新たな

挑戦に、山形営業所もその一翼を担

い、更なる飛躍を目指してまいります。



■ 福島営業所



福島営業所 所長
津田 伸一郎

〒960-0111
福島市丸子字漆方1-1
TEL:024-553-7344
FAX:024-553-6183

昭和46年4月に福島市森合に開設しました。

福島市は人口約27万人を有し、30万人を超える郡山市・いわき市に次ぐ県内3位の都市で、県庁所在地として行政・金融の拠点として発展してきました。自然豊かな環境を生かした果樹産業が盛んな都市でもあります。

福島営業所開設以来54年にわたり、お客様から信頼をいただいてまいりました。昭和61年の8.5水害や東日本大震災、原発事故、さらには数々の風評被害を経験しながらも、その復旧・復興の一端を担ってまいりました。これもひとえに、歴代経営陣及び諸先輩方のご尽力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

今後も培われた信頼を損なうことなく、

変化し続ける社会情勢や多様化する

ニーズに柔軟に対応してまいります。

そして、優秀なメーカー様の代理店と

して社会に貢献し、企業と社会が共に

繁栄できるよう努めてまいります。



■ 郡山営業所



郡山営業所 所長
二瓶 薫

〒963-8048
郡山市富田西五丁目24
TEL:024-953-3209
FAX:024-961-3211

昭和55年10月に郡山市鶴見坦に開設しました。

同年12月25日の雪害により、送電線鉄塔の倒壊や停電など大きな被害を受けました。2011年3月11日の東日本大震災に伴う原発事故による放射能漏れ被害により、人口減少をはじめ、住民の避難や風評被害など、社会的・経済的に甚大な影響を受けました。

郡山市は原発から80km圏内にあり、避難区域には指定されませんでした。放射能の影響は未来に向けても社会全体で背負っていかなければならない課題であります。

当社が創立70周年を迎えられたのは、歴代社長と諸先輩方の努力の賜物と考えます。今後、少子化に伴う経済圏の縮小が予想されますが、ライフラインの維持やインフラ整備に必要な電気材料の供給企業として、所員一同さらなる発展に努めてまいります。



新潟営業所



新潟営業所 所長補佐
呉井 聡

〒950-0932
新潟市中央区長潟二丁目1-9
TEL:025-286-0191
FAX:025-286-2359

昭和45年10月に新潟市入船町に開設しました。

創立20周年を迎えた昭和50年10月に現在の場所へ移転し、今日に至っております。

新潟と言えば、昭和39年の新潟地震、平成16年の中越地震、平成19年の中越沖地震と、3度の大地震を経験しました。特に中越地震・中越沖地震の前後には被害も重なり、緊急資材の搬入や仮設住宅建設資材の納入などに携わることができたことは、当営業所にとって貴重な経験となりました。当社が創立70周年を迎え、健全な経営を続けてこられたのも、歴代社長・役員の皆さま、そして諸先輩方の努力とご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

これからの新潟営業所は、電気設備資材を取り扱うプロフェッショナルとして、お客様から一層の信用と信頼をいただけるよう努め、ライフラインを支える電気設備資材の供給拠点として、所員一同、努力と発展を続けてまいります。



東京事務所



東京事務所 所長
安齋 年和

〒135-0016
東京都江東区東陽五丁目1-14
TEL:03-5534-6771
FAX:03-5534-6772

東京事務所は平成23年5月に開設しました。

ここまで歩んでこられたのは、多くの皆様からのご支援とご信頼のおかげであり、心より感謝申し上げます。日々の業務を通じて、そのありがたさを改めて実感しております。

東京での業務に携わる中で、巨大な街・東京という新しい環境や業務の進め方に戸惑うこともあります。その経験が私たちの視野を広げ、成長につながっていることを実感しております。また、多くの出会いやご縁を通じて学ぶことも多く、挑戦の積み重ねが大きな財産となっております。

変化の激しい時代だからこそ、私たちはこれまでで受け継いできた思いや姿勢を大切にしながら、挑戦を恐れず、一步一步前に進むことが大切だと考えております。その歩みは決して平坦ではありませんが、一つの困難を乗り越えるたびに新たな可能性が拓け、未来への道筋が見えてまいります。

これからも所員一同、力を合わせ前進してまいります。そして、地域社会や業界に貢献できる存在であり続けることを目指し、皆様のご期待に応えられるよう努力を重ねてまいります。



関連会社

株式会社 東北亜鉛電材製作所



株式会社 東北亜鉛電材製作所
工場長
鈴木 貞夫

〒984-0031
仙台市若林区六丁目
字南13-2
TEL:022-288-6127
FAX:022-288-6856

弊社は溶融亜鉛メッキ業と架線金物の製造販売を目的として、初代社長である故佐藤孝一氏により、1966年6月に現仙台市若林区六丁目の仙台工業団地内に設立されました。

中北電機の製造部門的立ち位置として、東北電力様をはじめ、新潟県を含む東北地域の多くの配電工事業者様や電材店様にお取引をいただき、2026年6月で操業60周年を迎えることとなります。これもひとえに、お客様のご愛顧の賜物と深く感謝いたします。

コロナ禍中の2023年には、仙台市の区画整理事業により、弊社が所属する工業団地が仙台市営地下鉄東西線沿線の六丁目の目駅前から、荒井駅・仙台東インター隣接エリアへ移転しました。これに伴い、同年1月に移転した新しい団地内に新工場を建設し、操業を継続しております。

従来の架線金物の製造販売に加え、新たに接地工事に使用するアース板をはじめとした銅溶接製品や、電線・接地線の加工といった新たな分野への取り組みも始めました。これからも中北電機のグループ会社として、多様化するお客様のご要望に応えるべく、誠意をもって事業に取り組んでまいります。今後とも、より一層のご愛顧を賜りますようお願いいたします。



歴代 営業所所長一覧(営業所開設順)

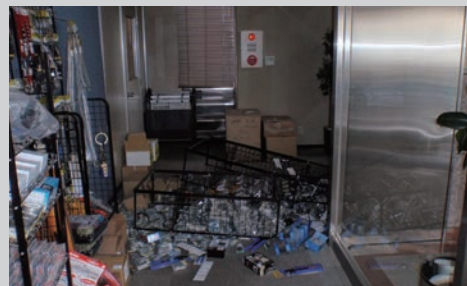
	初代	2代目	3代目	4代目	5代目	6代目	7代目
秋田営業所 昭和45年1月開設	阿部 明 S45.1.1～S62.8.31	松澤 孝 S62.9.1～H11.5.31	石川 信高 H11.6.1～H28.3.31	佐藤 直人 H28.4.1～			
新潟営業所 昭和45年10月開設	村山 勝治 S46.3.15～S48.2.28	新田 義正 S48.4.9～S59.3.31	田所 安一 S59.4.2～H2.3.31	斉藤 常雄 H2.4.2～H16.3.31	飯田 繁 H16.4.1～H28.3.31	呉井 聡 H28.4.1～R3.3.27	大竹 栄勝 R3.3.28～R3.8.31
福島営業所 昭和46年4月開設	渡辺 初吉 S46.4.1～S56.2.28	山口 厳 S57.3.1～S62.2.28	堀越 康任 S62.3.1～H15.3.31	目黒 秀夫 H15.4.1～H19.9.30	安田 敏彦 H19.10.1～H28.3.31	大竹 栄勝 R3.3.28～R5.3.31	津田 伸一郎 R5.4.1～
青森営業所 昭和46年10月開設	成田 幸雄 S46.10.11～S55.2.28	崎野 清造 S55.3.1～H1.9.30	遠藤 房司 H1.11.20～H4.9.30	成田 進 H10.10.1～H25.9.30	白戸 俊幸 H25.10.1～R4.8.25	土岐 稔 R4.8.26～	
盛岡営業所 昭和50年2月開設	菊田 國夫 S50.5.1～S62.8.5	村松 昭 S62.8.6～H10.9.30	斉藤 邦彦 H10.10.1～H28.3.31	澤口 篤 H28.4.1～			
郡山営業所 昭和55年10月開設	小山田 廣紀 S56.3.1～S58.5.1	目黒 秀夫 S58.10.1～H22.1.15	大竹 栄勝 H22.1.16～R5.3.31	二瓶 薫 R5.4.1～			
山形営業所 昭和58年6月開設	笹原 信夫 S58.6.1～S61.10.13	中俣 一郎 S61.10.14～H2.8.4	松田 貢 H4.6.1～H13.6.17	阿部 欽一 H13.6.18～H17.9.25	白田 雄二 H17.9.26～H28.3.31	渡辺 剛 H28.4.1～R6.8.21	長橋 直弘 R6.10.1～
東京事務所 平成23年5月開設	石井 新人 H23.4.1～R4.6.30	安齋 年和 R6.10.1～					



本社1階給湯室



本社1階事務所北側通路



本社1階玄関前



本社1階倉庫

第二営業部 阿部 明彦

2011/3/11 14:46 頃トラック(1t車)で配達途中。国道4号線松森での信号待ちで停車中になんか揺れてる?という感じでしたが徐々に揺れが大きくなり、みんな車から降りていました。近かったので自宅に戻ることに。予想はしていたが、食器棚から半分ほどの食器が落ちて散乱…まずは連絡のついた娘を学校から回収して帰宅。さてご飯はどうするか? まずは冷凍食品から消費していくべく調理。幸いキャンプ用品のバーナーがあるので調理は何とかなりご飯終了。翌日、会社に行き片付けをしていると、自販機屋さんが来て「こんな状況なので、お金は回収してい

きます。入っている飲料は無料で出るようにしておきますので飲んでください」と。有難く頂く。すると金邦電気さんがハイエースで来社。「よく来れましたね?!」「電力の緊急資材納入で緊急車両の許可とりました。途中であるもの買ってきたのでどうぞ!」とカップラーメンなどの食料を頂きました。次に来たのはユアテックの総務の女性の方。現場の人たちは全員出払っているので引取を頼まれたとの事。ビニールテープと一緒に、貰った缶コーヒーを渡したことを覚えています。会社の外部の水道が止まらなかったので飲料水は何とかなったのが幸いでした。

第一営業部 加納 郁枝

2011年3月11日 14時46分 東日本大震災
地震発生時、わたしは育児休暇中で実家で息子と一緒にでした。突然の激しい揺れに何が起きたのか分からず息子を抱かしめ立つことも出来ずにうずくまっていた。当時2ヶ月の息子は何も分からず笑っていて、不安でいっぱいだったわたしを安心させてくれました。もし仕事だったら、もし遠くにいて息子と会えていなかったら、

そう考えると日常と非日常の境は、とても薄く命を左右するものだという事を学びました。

震災から14年、当時の記憶は息子にはありませんが震災の教訓を伝え、日々の生活の中で防災意識を高め息子が次の命を守る力になってくれる事を願います。

電設部 花邑 裕一

2011年3月11日(金)14:46は東日本大震災が発生した時刻でした。当日は東北大学病院の蓄電池の竣工検査で、18階建東・西病棟屋上の電気室で検査を終了し、1階の駐車場で客先と打合せをしている時に突然グラグラと揺れ始めました。立っていられない程揺れ、時間は2分～3分くらいと思われましたがすごく長い時間に感じられ、ただ立ち尽くしている状況で、周りを見ると10mの照明灯がものすごい勢いの横揺れでこちら側に倒れてこないか心配した事を今も思い出します。

地震が落ち着いたら病院の建物から黒い煙が発生し、最初火事かと思いましたが自家発が起動した煙でした。そして、しばらくして誰かが携帯のテレビを見ていたらしく、大津波警報が発表された事を見せて貰い、とにかく会社へ戻り安否確認をしなければと思いながら、信号も止まっている産業道路を無事に帰って来た次第です。会社へ戻ったらすでに帰宅している人、社員が戻って来るのを確認する人 誰もが興奮状態ですとにかく今もあの日の出来事は、忘れる事の出来ない一日となりました。

2011年3月11日 東日本大震災 震災時の状況
地震速報 なまずくんの発報音声 地震震度3
3, 2, 1カウントダウン
震度3どころではない大きな揺れで慌てて机の下にもぐりました。揺れがおさまリ、床には書類やカタログなど散乱して転びそうになりながら外へ避難寒空の中、震えながら会社構内の中央にまとまって待機していました。少し落ちついたところで自分の荷物を取りに会社

の西口に向かうと地盤沈下で階段の1段目が2段目の高さになっていたことに驚いた。なんとか事務所に入りロッカーの荷物を取り出すことができました。自宅までの帰り道、道路は亀裂が入り段差になっているところや、信号が消えていたのでお互いに道を譲り合いながら慎重に運転して帰りました。

東日本大震災から14年が経ちます。いつどこでおこるかわからない災害のために、日頃から防災意識を持ち続けられるよう心がけていきたいと思っています。

盛岡営業所 沢口 篤

2011年3月11日2時46分
数年に1度大きな地震に見舞われる岩手県。しかしこの地震は我々の想像をはるかに上回っていた 3月、まだ小雪がちらつく盛岡市内平穏な生活が一変する大きな揺れも、「震度5か?」「10秒程度でおさまる」と思っていたロッカーの扉が開き、崩れ落ちるカタログや書類に、いつもの地震ではないと薄っすら感じてきた揺れが長引き、1度落ち着くと思われたが、追うように2度目の揺れ蛍光灯が消え、ここに居て大丈夫かと不安がよぎる

当時、盛岡営業所の事務所は2階、私は無意識に階段を駆け下りる
停電になりテレビが映らない、営業車のラジオを点けると「大津波警報」が発令される
沿岸部出身の所長が顔色を変え「まずい」と発した言葉は今でも鮮明に覚えている
岩手県：死者4,675人
行方不明者1,111人 あの時の教訓は生かされているのだろうか、備えは万全だろうか

福島営業所 八嶋 優幸

訪問、納品を終えた得意先の駐車場で、地震に遭遇しました。建物や看板、電柱などが大きく揺れ、下校中の小学生が怯えてうずくまっている姿が見えたため、駆け寄って声をかけました。同時に家族の安否も気になりましたが、電話はつながらず不安が募るばかりでした。帰社の途中では、消えた信号、傾いた建物、漏水などが目に入り、商業施設の屋上には避難している人々の姿も見受けられました。営業所も瓦が崩れ落ち、所内は棚が倒れて書類が散乱し、足の踏み場もなく入室が困難な状況

でした。さらに、福島第一原子力発電所では史上例を見ない大規模な事故が発生。錯綜する情報の中で、大きな不安と恐怖を感じました。この不安と恐怖、そして被害や影響は今もお続きしており、様々な問題が山積している状況です。

70周年を迎え、これからの「100周年」に向け、若手社員から見た 中北電機の現在地と未来を本音も交えて意見交換しました。

2025年7月15日(火)実施



第一営業部 鈴木 佑輔	資材課配送センター 塩川 健仁	資材課配送センター 野村 亮太	システム室 後藤 貴音	再生エネルギー推進事業部 若生 孝之
再生エネルギー推進事業部 萩原 礼奈	経理部経理課 菅野 美沙子	第一営業部 芳賀 里美	第一営業部 佐藤 嘉郎	

Q 入社のきっかけといまの実感

目に見えない仕事でも 地域社会を支えています。

私たちの生活に必要な不可欠な電力に関するインフラ事業に携わりたい、幼い頃から育ったこの街に貢献したい、地元の安定した企業に勤めたい、入社のかっけは一人ひとり異なりますが、ご縁があって中北電機で働いています。

地域社会にエネルギーを供給する電力のインフラ事業は、豊かな生活を築き上げていくために欠かせない仕事です。実際に働いてみると、私たちが普段何気なく使っている電気というのは裏ではたくさんの業務があり、複雑な作業が行われていることに驚かされました。と同時に、経験を積み重ねていくたびに技術的な理解をより深めることができ、そのことは仕事のモチベーション向上に繋がっています。

また、東日本大震災時の災害対応では、電力の重要性をあらためて実感した希少な経験となっていますし、以降の業務に対する向き合い方にも大きな影響を与えたと言っても過言ではありません。

会社は時代に合わせて柔軟に変化を遂げてきましたが、社員同士が

声を掛け合うような温かい雰囲気をはじめ、部長や課長などの役職に関わらず、みんなが率先して社内清掃に取り組む姿勢は、これまでも、そしてこれからも変わらない中北電機らしさだと実感しています。

Q 私たちから見た中北電機

70年の伝統が築いた、 相談しやすく成長できる職場。

部署毎の繋がりが強く、ビジネスシーンに必要な「報・連・相」をしやすい社風です。社員同士のコミュニケーションもスムーズに行えるので、悩んだり、迷ったりしても気軽に相談できるのが中北電機の良さだと思います。

福利厚生もしっかりしていて、休暇が取りやすいのでプライベートの時間を充実させることができます。育児と仕事の両立に難しさを感じることもあります、理解ある上司と同僚のみなさんが支えてくれるので、気に病むことなく仕事を続けられる恵まれた職場だと実感できています。これから中北電機に入社される方々にも同じように感じてもらいたいので、伝統ある「中北電機イズム」を継続できるよう努めていきたいと思っています。

実務に関しては、若手やベテランに関わらず、お客様との交渉や発注などの判断を任せてもらえる環境が整っています。また、その道のプロ集団ですので、勉強不足な面があったとしても諸先輩方がしっかりサポートしてくれ、若手は安心して働いています。

こうした働きやすい条件がいくつも揃っているのは、70年に渡って築き上げてきた、しっかりとした土台があるからではないでしょうか。

Q 成長を感じた瞬間

「まずやってみよう!」が 成長の合い言葉。

初めて一人で任された仕事に大きなプレッシャーを感じたことがありました。思っていたように事が進まなかったとき、会社の仲間たちに背中を支えてもらいながら、中北電機ならではの「まずやってみよう!」の精神を実体験できたことは、後の仕事に対してより意欲的に取り組めるようになりました。

また、複数の業務が重なるマルチタスクの状況下でも広い視野を持って対応できるようになったことや仕事と家庭の両立するために優先順位をしっかりと考えられるようになったことなど、業務への取り組み方は人それぞれですが、成長を実感できた瞬間は数多くあります。

災害時は工事関連のお取引先様と共にインフラ復興に尽力し、微力ながらも地域社会に貢献できたことは嬉しかったですね。お取引先様にはいろんな性格の方がおられます。一筋縄ではいかない方々と共にプロジェクトをやり遂げられたことは、私たちが成長するための大きな糧になっています。

社内業務に目を向けてみると、システムのアップデートなどにおいても、これまで経験のなかった打ち合わせから携わり、緊張しながらも少しずつ自分の意見を発言できるようになったことなど、様々な経験が私たちを前進させてくれています。

Q 私たちが考えるこれからの会社

若手が考え、築き上げていく、 未来の中北電機。

近年、求められる業務レベルは格段に上がり、一人ひとりのアップデートが必要不可欠になってきました。今以上に知識と経験を積み重ねていくことで、日本中の電力インフラ事業に携わり、業界のトップランナーになれる企業を目指していきたいですし、海外への販路も開拓していくなど、新しいことにどんどん挑戦していけたらいいですね。

会社がより成長していくためには若手社員の存在が必須です。その一方で、若手社員が簡単に離職してしまったり、働きながら育児や介護を行うのが難しかったりなど、まだまだ乗り越えなければならない課題があるのが現実です。

これからの会社には、誰もが安心して働き続けられる環境が求められます。他人の話も自分事のように真剣に捉え、若手の意見やアイデ

アが反映できる仕組みをつくること、そしてまわりにも納得して行動するよう、普段から若手自らが何事にも積極的に取り組んでいかなければならないと思っています。

私たちのような若手社員が働き方の改善策を会社へ提案したり、新人教育も行ったりなど、将来の仲間たちに胸を張って迎え入れられる職場環境をつくり上げる。少しずつでも実現できれば、売上100億円企業を目指したいです。

Q プライベートや日常の楽しみ

仕事とプライベートを両立させる ワークライフバランス。

私たちにとってプライベートの過ごし方は、心と体を休ませるためだけでなく、仕事の生産性やQOL(生活の質)を向上させるために欠かせない大切な時間となっています。

仕事終わりの休日になれば、親しい友人とショッピングに出かけたり、ご当地グルメを食べ歩きしたり、様々なスポーツで汗を流したり、子どもやペットと穏やかな時間を過ごすなど、オンとオフをしっかりと切り替えてリフレッシュしている社員が多くいます。

友人や家族、大切な人と過ごす休日や一人でゆっくり過ごす休日などがある一方で、仕事の習慣から抜け出せない人もいるようで、旅行が趣味という社員の思い出話によると、旅先でもついつい電柱の装柱を目で追ってしまい、気が付けばスマートフォンで撮影していることもあるとか。日頃から熱心に仕事と向き合っている証拠なのでしょうし、こればかりは避けられない職業病のようです(笑)。

また、ワークライフバランス(仕事と生活の調和)も忘れてはならない要素です。仕事に前向きに取り組めているから、生活が充実します。もちろん、その逆もありで、仕事と生活の両極を充実させることが相互に良い効果を生み出す要因になっています。



1950～1970年代

1950年代 初代社長佐藤孝一氏／能登半島旅行(1970年代)／中北電機野球チーム(1977年)／ソフトボール大会(1987年)
東京旅行(1985年)／沖縄旅行(1986年)／松島旅行(1987年)／グアム旅行(1990年)／山形旅行(1991年)



1990～2010年代

小岩井農場(1992年)／シンガポール旅行(1992年)／ハワイ旅行(1995年)
広島旅行(2000年)／沖縄旅行(2007年)／オーストラリア旅行(2015年)



2010～2020年代

オーストラリア旅行(2015年)／ハワイ旅行(2015年)
社友会 岩手旅行(2016年)／忘年会 水戸屋(2017年)



人と地域をつなぐ力 ー中北電機の取り組みー

私たち中北電機は、「地域とともに成長する企業」でありたいと考えています。

地元の皆さまとのつながりを大切にし、教育支援や環境活動、地域イベントへの参加を通じて、笑顔あふれる街づくりに貢献しています。

1 東北・みやぎ復興マラソンボランティア

2023年11月5日

仙台市・名取市・岩沼市で「東北・みやぎ復興マラソン2023」が開催されました。震災の被災地を走るコースで復興支援や記憶の継承を目的とし、多くの参加者と市民に支えられて行われています。本大会のボランティア活動に参加し、運営の一端を担いました。

2 仙台青葉まつり協賛

2024年5月18日～19日

仙台市中心部で「第40回仙台・青葉まつり」が開催され、すずめ踊りや時代絵巻巡行など多彩な催しにより約93万人が来場しました。当社は本祭りに協賛し、地域の伝統と賑わいに寄与しました。



3 東北キャリアゼミ2024

2024年9月～2024年12月

仙台市内を中心とした東北6県の大学に通う大学生へキャリアを考える機会及び東北の企業への理解を深めるプログラムや、東北の企業で働いている自分を想像できる人的交流の機会を提供しました。



その他

使用済み切手運動

「一般社団法人 親切会東北支部」にて
使用済み切手収集活動を実施しております。



古紙リサイクル

Pocci!企業会員に登録し、古紙(ダンボール等)リサイクルを通じて得たポイントを地域団体の活動資金として寄付しております。
子供たち応援ポイント「Pocci!(ポッチ)」<https://sp.pocci.jp/concept/>



エコキャップ回収運動

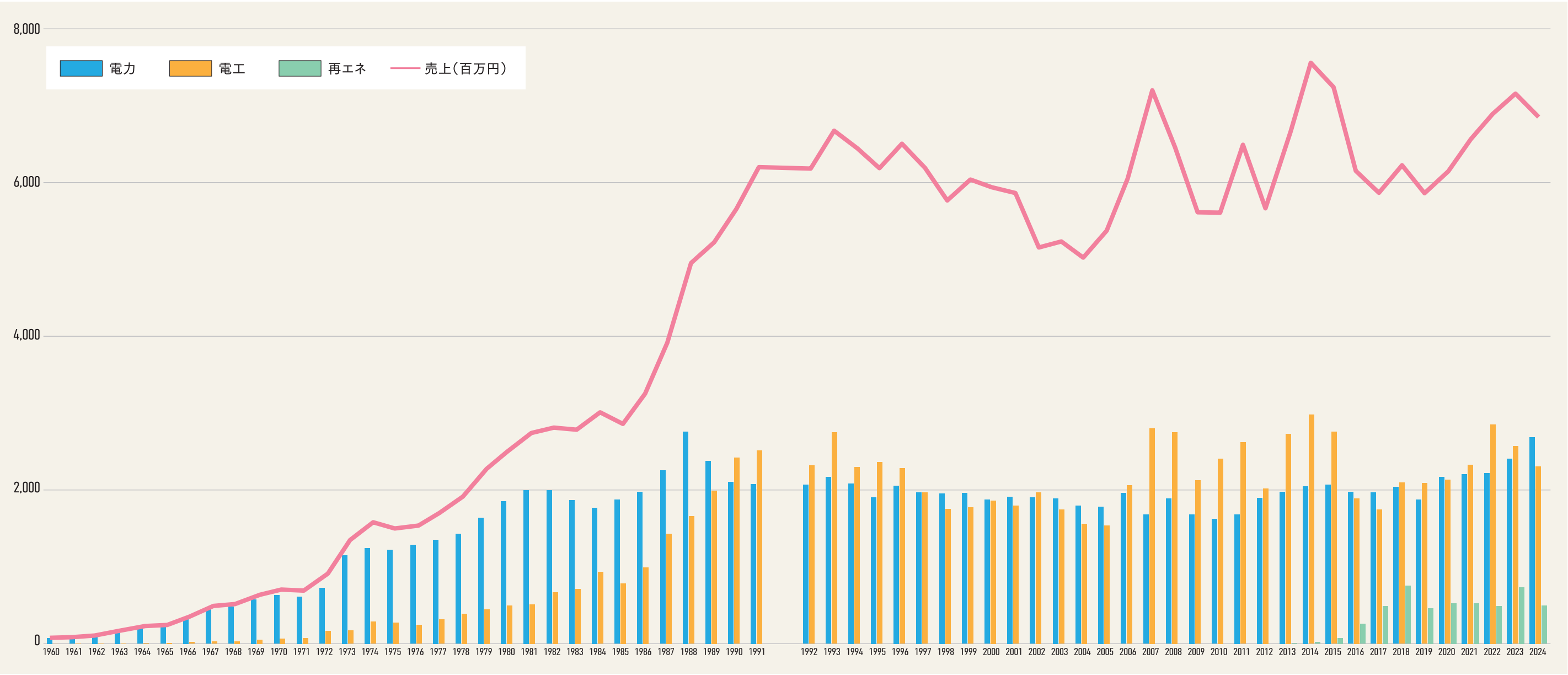
「公益社団法人 仙台中法人会」にてエコキャップ回収運動を実施し、ワクチン寄贈団体から世界の子供たちへ全額寄付しております。



■ 納入実績

平成元年	宮城県行政庁舎新築	平成24年	大手町一丁目第2地区第一種市街地再開発事業（B棟）DBJ B
平成元年	住友生命仙台中央ビル第1期（SS30）	平成26年	仙台市立病院新築
平成7年	みやぎ産業交流センター新築（夢メッセみやぎ）	平成27年	仙台市営地下鉄東西線
平成9年	仙台北部再開発ビル（AER）	平成28年	南蒲生浄化センター
平成11年	宮城県総合運動公園スタジアム（グランディ21）	令和2年	北海道千歳新川ソーラーパーク建設工事
平成14年	エナジースクエアビル新築	令和3年	北陸新幹線440K4・455K4間電力設備
平成20年	六ヶ所村二又風力発電所施設建設	令和5年	JRE大分別府湾風力発電所建設工事
平成21年	セントラル自動車新工場建設（現：トヨタ自動車東日本（株））	令和6年	小笠原母島太陽光設備設置工事
平成23年	東京エレクトロン宮城本社工場新築（開発棟）	令和6年	阿武隈風力発電所建設工事
平成23年	九州新幹線建設工事（博多駅ー新八代駅間）	令和6年	3GeV高輝度放射光施設NanoTerasu（ナノテラス）

■ 売上推移



歴代取扱商品

1955～取扱開始

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| ● エナジーサポート(株)
(旧:㈱高松電気製作所) | 高圧カットアウト、気中開閉器 |
| ● 日本ガイシ(株) | 中実ピン碍子、長幹碍子 |
| ● 大阪電具(株) | 圧縮端子、圧縮スリーブ |
| ● 日動電気(株) | 接地棒、樹脂製品 |
| ● イワブチ(株) | 架線金物、装柱金物 |
| ● ネグロス電気(株) | ケーブルラック、パイラック |
| ● ㈱谷沢製作所 | ヘルメット、その他保護具 |
| ● 藤井電気(株) | 安全帯、ハーネス、
ワークポジショニング器具 |
| ● ㈱東北亜鉛電材製作所 | 亜鉛メッキ加工、腕金、装柱ボルト |
| ● マクセルイズミ(株)
(旧:㈱泉精器製作所) | 圧縮ベンチ、電動油圧圧縮工具 |



1975～取扱開始

- | | |
|---------------|-------------------|
| ●(株)永木精機 | ベンリリッチ、張線器、間接活線工具 |
| ●(株)ワールド避雷針工業 | 避雷針工事、接地銅板 |
| ●東北ポール(株) | コンクリート柱 |
| ●(株)北関東工業 | ハンドホール、鉄蓋 |
| ●(株)シモン | 安全靴、作業手袋 |
| ●(株)ムサシインテック | ハンディメガー、耐圧試験器 |
| ●丸一鋼管(株) | 鋼製電線管、付属品 |



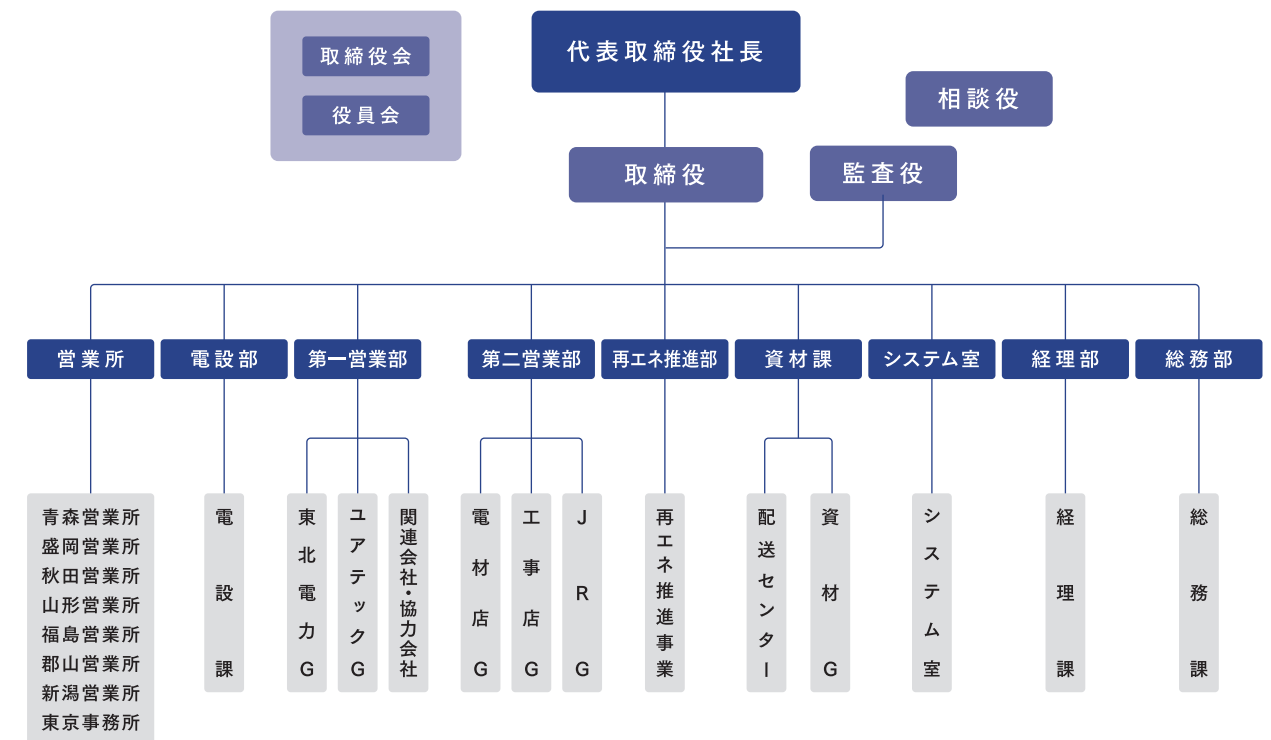
1990～取扱開始

- 日東工業(株) 分電盤、漏電遮断器、キュービクル
- 日置電機(株) カードテスター、絶縁抵抗計、クランプメータ
- 古河エレクトロム(株) エフレックス、管路材、古河電工グループ製品
- 古河電池(株) 蓄電池、UPS、直流電源装置
- (株)土井製作所 防水鉄鉄管、地中線材料
- 光洋電器工業(株) ポリマー磚子、自動点滅器
- 藤津磚子(株) 磁器磚子、長幹磚子



※掲載順不同

組織図



事業所一覽

本社	〒984-8575 仙台市若林区卸町東四丁目3-27	TEL:022-288-1000
青森営業所	〒030-0813 青森市松原三丁目2-17	TEL:017-775-3345
盛岡営業所	〒020-0836 盛岡市津志田西二丁目3-13	TEL:019-601-6838
秋田営業所	〒010-0851 秋田市手形字西谷地708番	TEL:018-835-3688
山形営業所	〒990-0832 山形市城西町二丁目7-43	TEL:023-645-1605
福島営業所	〒960-0111 福島市丸子字漆方1-1	TEL:024-553-7344
郡山営業所	〒963-8048 郡山市富田西五丁目24	TEL:024-953-3209
新潟営業所	〒950-0932 新潟市中央区長潟二丁目1-9	TEL:025-286-0191
東京事務所	〒135-0016 東京都江東区東陽五丁目1-14	TEL:03-5534-6771
関連会社		
株式会社 東北亜鉛電材製作所	〒984-0031 仙台市若林区六丁目字南13-2	TEL:022-288-6127
中北興業株式会社	〒984-0002 仙台市若林区卸町東四丁目3-27	TEL:022-288-1044

会社概要

会社名	株式会社 中北電機 Nakakita Electric Co., Ltd.
所在地	〒984-8575 仙台市若林区卸町東四丁目3番27号 TEL：022-288-1000(代) FAX：022-288-1055
創立	昭和30年9月10日
創業	昭和30年10月1日

代表取締役	佐藤 孝文
取締役 経理部長	佐藤 潤
取締役 総務部長	大竹 栄勝
取締役 営業部長	渡邊 健二
監査役	柴田 登

社員数	82名
資本金	3,000万円
建設業許可	許可番号:国土交通大臣許可(特-24)第22317号 許可年月日:平成24年9月7日 建設業の種類:電気工事業
決算	年一回(3月)

※2025年10月1日現在

編集後記

本誌では、弊社創立70周年を記念し、創立以来の歩みと未来への展望を特集いたしました。節目の年を迎えるにあたり、多くのお客様やお取引先様、そして社員の皆さまのご支援により今日まで事業を続けてこられたことに、改めて深く感謝申し上げます。

卸売業という仕事は、一見すると地味で目立たない存在かもしれませんが。しかし、製造と販売、需要と供給、地域と世界、それらをつなぐ「橋渡し役」として、私たちの使命は常に時代の変化とともに進化してまいりました。70年前と比べると、取り扱う商品も、取引のスピードも、求められるサービスの質も大きく変化しています。だからこそ、変化に柔軟に適応する力、そしてお客様にとっての「最善」を追求する姿勢こそが、この70年を支えてきた原動力であると実感しております。

取材を通じて、長年勤める社員の声や若手社員の視点にも触れることができました。「誠実さを忘れず、信頼を積み重ねること」という価値観が世代を超えて受け継がれている姿に、弊社文化の根強さを感じるとともに、それが変わらぬ強みであることを再認識いたしました。

これからの10年、20年は、卸売業にとって試練であると同時に大きなチャンスの時代になるでしょう。AIやDXの進展、物流網の再構築、環境配慮など、取り組むべき課題は数多くあります。そのなかで私たちは、「人と人をつなぐ」という原点を大切にしながら、新たな価値の創造に挑んでまいります。

本誌を通じて、読者の皆さまに弊社の想いと未来への決意が伝われば幸いです。今後とも変わらぬご愛顧とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

70周年記念誌プロジェクトチーム 塩川健仁